



石田 史

長かった梅雨がようやく明けたのと同じ時にあの暑さが襲来！ ニユースのたびに猛暑や酷暑といった言葉を聞くだけで熱気がこみ上げてきます。

そんな言葉で最近、クールやスマートといった比較的良いイメージが湧く言葉をよく聞きます。スムーズでかつこいいイメージに使われますが、近年農業の業界でもスマート農業という言葉がテーマです。きつい、きたない、かつこ悪いなどといった農業のマイナスイメージを、ITを駆使することでデータ分析し、栽培管理や農作業の自動化を進め作業を軽減していくこうとする動きです。

スマート&クール

ビッグデータを利用するその試験的な取り組みが各地で動き出し、静岡県のAOI(アオイ)プロジェクトもその一つです。AOIプロジェクトとは、研究所のAOI-PARC(パーク)と会員制組織のAOIフォーラムで構成され、スマホに例えるとスマホ本体がPARC、アプリをフォーラム、そして操作して活用するのがフォーラム会員の農業生産者や研究者、企業という関係になっていて、どのアプリと利用者をつなげたらネットワークが広がるか？ まだ開始して2年のため、どんな機能を持ったアプリを載せたら便利になるか幅広く募集中で、その広がり期待されます。

ビッグデータが集積できれば将来の農業後継者不足時には、そのデータで自動化された生産管理により誰でも容易に作物栽培が可能になるかもしれません。また、PARCには最新の分析機材も備えてあり、従来の生産者にはより安定的な作物栽培、そして、機能性表示食品に例えられる高付加価値な商品開発に活躍するのではないのでしょうか？

IT管理で安定供給が可能となり、味や食感、栄養が違う食材をその日の気分で選択、日々の食を楽しむクールでスマートな近未来の生活が来るのでは？

(県農業経営士協会副会長)